

## 歯科技工士 仕事の流儀

### ～臨床総義歯の設計～

歯科医師が審査診断し自らの感覚で製作された時代から歯科技工士という職業が生まれ「分業」という壁が存在してしまった。その壁とは何かを理解することで解決策が見えてくると思う。歯科技工士は患者さんを理解しないで模型上で満足してはいないだろうか。臨床義歯とは歯科技工士の手から離れてから始まる物です。患者さんの希望にどれだけ答えられるか、そのためには何が必要なのか、臨床義歯はいつも同じ条件ではありません。咬合器上と口腔内では別物です。決して模型は”痛い”とは言わない！総義歯が難しく悩む理由は模型で製作したものを生体に調和せるということ。患者さんの情報を歯科医師と共有することがポイントになると思います。口腔内の失われた空間を復元形成する技術が必要な総義歯製作をするためには患者さんの情報を確実な意思伝達が求められます。施主が住みやすい快適な建物を作る時に思いを込めた構造基準を含む設計図が必要なように総義歯製作にもそれに準じる基準設計が必要であるはずが現状として製作する歯科技工士に思いが届けられているだろうか。技工指示書に簡単なメモと模型に床外形線くらいを書き込み“おまかせ”で依頼されていませんか？歯科技工士として歯科医師と連携を上手くするにはお互いの「できること、できないこと」を知り、共通な物差しをもって正しく伝え合うことで「患者さん満足する義歯」に近づけると思います。

義歯で満足している患者さんは決して義歯の悪口を言いません。上手い義歯を作る歯科技工士が望まれています。コミュニケーションの大事さ、トータルに対応できるベーシックな臨床応用技術と知識、何よりも心で作る義歯の大事さを理解することです。私たちの目標は、噛めることのみならず美味しく食べられることそして”笑顔”を作ることです。今回は「臨床総義歯の設計」を中心にお話を進めたいと思います。歯科技工士の仕事の流儀を今一度考えてみませんか。

平成 28 年 9 月吉日  
茨城県守谷市松前台 6-12-1  
0297-48-4041  
Dental Design Days  
歯科技工士 戸田 篤